

れいわ ねんど だい かい はちおうじしたぶんかきょうせいすいしんひょうぎかい
令和2年度 第1回八王子市多文化共生推進評議会
ぎじょうてんろく
議事要点録

かいさいほうほう しよめん かいさい
開催方法 書面による開催

そうふび れいわ ねん ねん がつ にち
送付日 令和2年(2020年)8月6日

しゅっせきしゃ いけんていししゅつしゃ
出席者(意見提出者)

もりもざちやう えんどうひょうぎいん おかばやしひょうぎいん おくのひょうぎいん かさいひょうぎいん ひょうぎいん
森茂座長、遠藤評議員、岡林評議員、奥野評議員、河西評議員、シュレスタ評議員、
たてやまひょうぎいん ひょうぎいん はなわひょうぎいん りゅうひょうぎいん
館山評議員、ドミー評議員、花輪評議員、劉評議員

けっせきしゃ
欠席者 なし

はいふしりょう ひょうぎかいしだい
配布資料 評議会次第

しりょう はちおうじしたぶんかきょうせいすいしん ぶらん もと とりくみじょうきやう
資料1 八王子市多文化共生推進プランに基づく取組状況について

しりょう しんがたころなういんすかんせんしやう はちおうじし たいおうどう
資料2 新型コロナウイルス感染症による八王子市の対応等について

しりょう はちおうじしきほんけいかくおよ ぶぶんかきょうせいすいしん ぶらん さくてい
資料3 八王子市基本計画及び多文化共生推進プランの策定について

ぎじょうてんろく はちおうじしたぶんかきょうせいすいしん ぶらん もと とりくみじょうきやう いけん しつもん
議事要点録： 八王子市多文化共生推進プランに基づく取組状況への意見・質問

しさく ぎょうせいじょうほう かくしゅしんせいしよ たげんごか
【施策No.1】行政情報、各種申請書の多言語化

- ・ICTの更なる活用を期待する。

しさく たげんご まどぐちたいあう そうだんじぎやう じゅうじつ
【施策No.2】多言語による窓口対応、相談事業の充実

- ・令和元年9月に外国人サポートデスクの窓口機能の拡充を行ったことは結構なこと。機能拡充に伴い、相談件数は増えたか？前年度実績との比較をお願いしたい。

じむきよく かいとう
【事務局の回答】

H30年度 9～3月：612件 R1 年度 9～3月：750件

機能拡充後、相談件数は増加している。

- ・弁護士による外国人個別相談について。相談内容としては、外国人だから遭遇する問題と、国籍等に関係なく遭遇する問題とどちらが多いのか？どのような通訳が対応したのか？(法務関係の通訳経験のあるブローの通訳か、ボランティアの通訳か)

じむきよく かいとう
【事務局の回答】

令和元年度については、離婚、商標登録、住居関連の相談など、国籍を問わない相談内容が多い。通訳は八王子国際協会の語学ボランティアが務めている。

・令和2年度からの新規事業として「カタログポケット」の活用があるが、どのような機能があるのか。広報紙での周知などは行っているか。

【事務局の回答】

「カタログポケット」は、スマートフォンやタブレット端末で使用する多言語対応アプリであり、自動翻訳機能、読み上げ機能などが主要な機能として挙げられる。広報紙の情報を多言語で提供できるという点で、有用であると考えている。

7月から運用・公開がスタートしており、広報紙などでも周知している。

【施策No.3】語学ボランティア等の育成と活用

・おもてなし語学講座について。講座自体は素晴らしかったが、それを活かす場が少ないと感じた。

【施策No.5】やさしい日本語の普及と活用

・最近、「やさしい日本語」が市民権を得ていると感じる。今後も活用の増加を期待する。

【施策No.7】外国人市民向け日本語学習機会の提供

・外国人介護従事者に対する日本語学習支援事業について。対象者はどのような人なのか？EPAの介護福祉士候補者か、それとは関係ない日本在住の外国人市民なのか。

【事務局の回答】

特に対象は限定せず、誰でも受講できる教室となっている。介護施設で働いている方、介護福祉士候補者のほか、日本語学校の学生も受講できる。

【施策No.11】帰国・外国人児童生徒等への情報提供

・ポケトークはうまく使えばかなり有効だと考えるが、どの程度の台数を配布したのか、今後増やそうという考えはあるか。また、活用効果はどうだったのか。

【事務局回答】

現在、教育支援課ではポケトークを14台保有し、そのうち12台を希望する市内の小・中学校に貸出している。今後の台数増加等については、現在検討している。

児童・生徒やその保護者と、学校間において、さまざまな場面でコミュニケーションの助けになっているとのこと。

・子どもへのサポートもそうだが、大人の保護者へのサポートがないと、学校からの連絡が上手く伝わらない。

【施策No.12】 帰国・外国人児童生徒への日本語による学習支援

- 日本語学級というのは日本語の学習を正課の授業時間として認めるクラス(つまり課外授業ではない)なのか。また、その日本語学級の教員はどのような人が務めているのか。

【事務局の回答】

児童・生徒の個々の日本語能力に応じて、在籍校の校長が必要と認めた場合に、特別な教育課程として日本語学級開設校に通級し、指導を受ける。日本語学級での授業時間は、正規の授業時間として扱われ、1回2時間、週2回の通級を原則としている。

指導については、研修を受けた市立小・中学校の教員が対応している。

- 今後の生徒の増加状況によっては、専任の日本語教員を雇用することも視野に入れてはどうかと思う。外国人児童・生徒の多い福岡市では、併任ではなく、専任の日本語教員を採用して、指導に当たらせていると聞く。

- 日本語学級について、由井第一小への移設理由を教えてください。

【事務局の回答】

移設の理由としては、以下の3点が挙げられる。

- 同じく日本語学級のある打越中学校と隣接し、小・中学校間の連携体制の強化が期待できる
- 由井第一小学校は外国籍の児童も多く在籍し、通級する児童がなじみやすい環境にある
- 各学校から、より通学のしやすい京王線の北野駅に近く、通級について利便性が高い

【施策No.13】 不就学の外国人児童生徒等への対応

- 出身国によっては、児童の年齢と就学のタイミングがあまり関係ない場合もある。親への説明が必要だ。

【施策No.19】 外国人市民への入居差別の解消、居住支援

- 外国人留学生住居賃貸代行保証料補助金制度について。まだまだ利用件数が少ないと思う。市の制度が知られていないのではないだろうか。

【施策No.21】 外国人就業者とその家族の支援

- 技能実習生向けガイダンスの実施について。市内の企業から依頼が届いたということは、当市の多文化共生の取り組みが民間企業にも理解されつつあるということだと想像している。多文化共生にかかると、市の継続した取り組みの結果だと思う。このような生活マナーのオリエンテーションがあると異文化社会に入っていきやすいと思うので、継続してもらいたい。

【施策No.22】災害時のわかりやすい情報提供

- ・コミュニケーション支援ボードの作成・配備は、効果の期待できる「見てわかる化」であり、他の自治体にもアピールできる成果だと思う。

【施策No.26】外国人留学生への生活支援

- ・支援の対象として、日本語学校の留学生も含めるよう検討してもらいたい。

【施策No.30】多文化共生意識啓発に関する事業の実施

- ・多文化共生意識啓発のための映像制作について。ホームページで公開する以外にどのような活用が想定されているのか？

【事務局の回答】

市主催のイベントでの上映のほか、ケーブルテレビでの放映を想定している。

- ・多文化共生の肝は日本人の意識変化。映像が多くの市民の目に触れることを期待する。

- ・チャド・マレーンの講演会はとても良かった。気づきの機会として、あのような企画は、多文化共生を単なる国際化だと感じていた市民への良い啓発となると思う。

- ・図書館での展示は、前年度より良い内容だったと思う。更なる充実を望む。

【施策No.31】多文化共生を推進する市民の育成

- ・外国人として日本に長く住んでいるが、日本人が多文化共生の大切さを感じていないし、必要だと思っていない人が多いと感じる。イベントやメディアを通じて情報提供をしていかなければならない。

【施策No.33】国際理解の推進

- ・学校での国際理解教育、異文化紹介はとても大切だと思う。引き続き実施してもらいたい。

【施策No.34】国際協力団体等との連携による国際協力及び啓発

- ・現在、日本では、国際協力団体をはじめとする様々な機関（企業や学校等を含む）で、国連で採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に向けて様々な努力がなされている。施策No.34は、まさにこのSDGsに関わった事業。八王子のプランには施策No.34以外にも、SDGsに関わる施策がたくさん挙げられている。今後、この観点からの事業の見直しを進めてもらいたい。

- ・フェアトレードの取り組みや草の根技術協力などについて、もっと市民へのPRが必要だと思う。

【施策No.36】おもてなしマインドの推進

- ・商店街の振興について。ICTの活用を期待している。

【施策No.38】海外友好交流都市との交流

- ・ヴリーツェン市に関しては、その縁についても、より多くの市民に認知されることを期待する。

その他の意見

- ・市の活動が多岐にわたり、今回初めて知る活動も多かった。
- ・外国人に対する新型コロナウイルス対策の周知は大きな課題と感じる。
- ・市のホームページ等で、多文化共生に関する情報が以前より充実しているように思う。